山陽特殊製鋼株式会社
2020年度決算および次期経営計画(電話カンファレンス)
質疑応答(要旨)

開催日　2021年4月30日(金)
説明者　代表取締役社長　樋口　眞哉(次期経営計画)
　　取締役常務執行役員　髙橋　幸三(2020年度決算)

Q. 2021年度の業績予想の考え方について教えてほしい。2020FY4Qの鉄スクラップサーチャージのタイムラグ(×17億円)が解消されるとすると、2021年度の利益はもう少し増えるのではないか。

A. 鉄スクラップの購入価格は、2020年度後半に上昇したが、原価ベースでは、まだ上がりきっていないため、2021年度もタイムラグが残るとみている。一方、第２棒線工場投資に伴う減価償却費の増や緊急収益改善対策終了による人件費・経費の戻りなどにより固定費は増加する。2021年度の実力損益としては、業績予想の70億円(経常利益)からタイムラグ(×23億円)を除いた水準と考えている。

Q. 前回の説明会で、ＥＵ域外からの特殊鋼の流入が減り、Ｏｖａｋｏの受注が回復しているという話があったが、足元はどのような状況なのか。また、カーボンニュートラルへの動きの中で、Ｏｖａｋｏの環境対応精神を評価する声があるが、グリーン調達面での同社販売への影響について、どのように考えているか。

A. 中国国内の需要が強いことやコンテナフレートの高止まりなどから、ＥＵ域外からの特殊鋼の流入が減っている中で、自動車向けを中心に特殊鋼需要は堅調であるため、Ｏｖａｋｏの受注が好調という状況に変わりはない。また、当社と同様に、同社のサプライチェーンも長いため、減っていた在庫の積み増しの注文も入ってきている。

　カーボンニュートラルによる同社販売への影響については、今はまだ数字に表すのは容易ではないが、エコプロセスである同社製品への需要は今後確実に増えてくると考えている。また、同社の出荷先は、ほとんどがＥＵ域内であり、地産地消という点からも強みがあると考えている。

Q. ＭＳＳＳの固定資産減損の背景、改善に向けた対策について

A. ＭＳＳＳの生産・販売は徐々に回復しつつあったが、インドにおける新型コロナウイルス感染症の再拡大により、４月中旬から同社への酸素供給が再び停止される事態となった。前回は２週間で供給が再開されたが、今回はいつまで続くかわからない。このようなことから、新型コロナウイルス感染症による今後の同社事業活動への影響等を考慮し、同社の収益回復時期について、より慎重な見方をせざるを得ないとの判断も含めた総合的な見地から減損を行った。

　今後のインドの特殊鋼需要は伸びるとみており、ＭＳＳＳにおいては、引き続きコスト削減に取り組むとともに、営業体制の強化を図り、同社の強みである、高グレードの軸受鋼、太径の軸受鋼の販売拡大を通じて収益改善を図っていきたい。

Q. 次期経営計画における単独の販売数量75千トン/月は、従前にくらべて少ない印象。日本製鉄との生産地入替によるシナジーは織り込まれているのか。また、需要が減少すると見ている背景を教えてほしい。

A. 単独の販売数量75千トン/月は、在庫調整に入り始めた2019年度上期の水準。次期経営計画には３社連携によるシナジーを織り込んでいるが、それよりも少子高齢化、地産地消やＥＶ化の進展が早く、全体として需要が減少するという見方をしている。損益分岐点を下げ、この数量レベルでも一定の利益を出すことができる筋肉質な企業基盤を確立したい。

Ｑ．次期経営計画の単独の販売数量（75千トン/月）に関し、前中期（第10次中期経営計画）期間において実施した第２棒線工場の投資の効果をどう考えたらよいか。

Ａ．第２棒線工場投資の目的は、受注内容の小径化・小ロット化への対応、製品の品質向上にある。ＲＳＢ圧延機の導入により、高圧下による品質向上が期待でき、また、ロール替えに伴う工程休止時間の減により、効率を落とさず生産できるようになった。加えて、冷却床や切断機等の精整ラインも増強した。これらにより、顧客への納期対応能力がアップしている。

Ｑ．当社はCO_2排出量削減目標について、具体的にどのように考えているのか。

Ａ．国の目標に基づき、当社も2050年カーボンニュートラルを目指し対応を進める。当社のCO_2排出量のうち80％程度が電力・都市ガス使用によるものであり、排出量削減のためには、今後グリーンな電力・ガスを使用できるかどうかが一つのポイントである。

　当社は、エコプロダクトの創出を通じて、サプライチェーンにおけるCO_2排出量削減に取り組むとともに、省エネ（エコプロセス）を引き続き推進することにより、2050年カーボンニュートラル実現を目指す。

Ｑ．次期経営計画において「ＥＶ、風力発電、鉄道、水素社会等の分野で高信頼性ニーズに応える」とあるが、具体的に当社のどういう製品が活躍するのか。

Ａ．ＥＶでは、大きな負荷がかかる減速機の歯車等に当社の肌焼鋼（ＥＣＯＭＡＸ鋼）が使用されることを期待している。風力発電では、非常に大型でメンテナンスフリーの軸受が必要になるが、ここに介在物が少ない高清浄度鋼技術が活きてくる。鉄道向けでは高速鉄道車両用の軸受鋼材、水素社会化についてはステンレス継目無鋼管が貢献できると考えている。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。